

資治通鑑 第 184 卷

【隋紀八】 起強闕赤奮若六月，不滿一年。

●隋、■唐、**突厥**突厥、統国訳漢文大成 經子史部 第 10 卷 317p

恭皇帝下義寧元年（丁丑、617年）

【李淵は突厥とも結び勢力拡大】

■六月，己卯（15-16+1=0?），**李建成**等は晉陽に至る。

■**李淵は突厥と和親** **劉文靜**は李淵に、

「突厥と相い結び、其の土馬を資として以て兵勢を益すべし」

と勧め、淵は之に従い、自ら手啟を為り、辭を卑しくして禮を厚くし、**始畢可汗**に遣りて云う、

「大いに義兵を擧げ、遠く主上を迎え、復た突厥と和親し、開皇之時の如くせんと欲す。若し能く我と俱に南すれば、願わくは百姓を侵暴する勿かれ。若し但だ和親し、坐して寶貨を受けるなら、亦た唯だ可汗の擇ぶ所なり。」

始畢は啟を得、其の大臣に謂って曰く、

「**隋主**の人と為りは、我は知る所也。若し迎えて以て來たれば、必ず**唐公**を害し而して我を撃つは疑い無し矣。苟し**唐公**が自ら**天子**と為れば、我は當に盛暑を避けず、兵馬を以て之を助けん。」

即ち命じて此の意を以て復書を為る。使者は七日に而して返り、將佐は皆な喜び、突厥之言に従うを請い、淵は可かず。**裴寂**、**劉文靜**等（10-318p）は皆な曰く、

「今義兵は集まると雖も而るに戎馬は殊に乏し、胡兵は須むる所に非ず、而も馬は失う可からず。若し復た稽回すれば、恐らくは其れ悔い有らん。」

淵は曰く、

「諸君は宜しく更に其の次を思うべし。」

寂等は乃ち請う、

「**天子**を尊びて**太上皇**と為し、**代王**を立てて**帝**と為し、以て隋室を安んじん。檄を郡縣に移すべし。旗幟を改易し、絳白を雜用し（隋は赤を尊ぶ。白を使い隋に対抗するを表現）、以て突厥に示さん。」

淵は曰く、

「此れ『耳を掩いて鐘を盗む』と謂う可し、然れども時事に逼られ、爾せざるを得ず。」

乃ち之を許し、遣使して此の議を以て突厥に告げる。

■**李世民らは西河を攻める** 西河郡は淵の命に従わず、甲申（20-16+1=5日）、淵は**建成**、**世民**をして兵を將いて西河を撃た使む。太原（旧晋陽。開皇十年に分けて太原県を置き、北齊が置く龍山県を晋陽県と為す。山西省冀寧道太原県、現・太原市晋源区）令の太原の**溫大有**に命じて之と偕に行かしめ、曰く、

「吾が兒は年少なり、卿を以て軍事に參謀せしめん。事之成敗は、當に此の行を以て之をトすべし。」

時に軍士は新たに集まり、鹹な未だ閱習せず、**建成**、**世民**は之と甘苦を同じくし、敵に遇えば則ち身を以て之に先だつ。近道の菜果は、買うに非ざれば食わず（略奪せず）、軍士の之を竊む者有れば、輒ち其の主を求めて之を償い、亦た竊む者を詰らず、軍士及び民は皆な感悦す。西河の城下に至り、民の入城するを欲する者有れば、皆な其の入るを聽す。郡丞の**高德儒**は城を閉じて拒み守り、己丑（25-16+1=10日）、攻めて之を抜く。**德儒**を執りて軍門に至り、**世民**は之を數めて曰く、

「汝は野鳥を指して鸞と為し（182 卷大業 11 年にあり）、以て人主を欺き、高官を取る、吾が義兵を興すは、正に佞人を誅するが為耳！」

遂に之を斬る。自余は一人も戮さず、秋毫も犯す無し、各々尉撫して復業せしめ、遠近は之を聞いて大いに悦ぶ。建成等は兵を引いて晉陽に還り、往き返り凡そ九日。淵は喜んで曰く、

「此を以て兵を行えば、天下に横行すると雖も可也。」

遂に關に入る之計を定める。

■ **[李淵勢力は文武を整える]** 淵は倉を開きて以て貧民を賑わし、應募する者は日々に益々多し。淵は命じて三軍と為し、左右に分け、通じて之を義士と謂う。裴寂等は淵に號を^{たてまつ}上り大將軍と為し、癸巳（29-16+1=14 日）、大將軍府（隋の親王府・大將軍府・州郡の官属の制をさん参用す）を建てる。寂を以て長史と為し、劉文靜を司馬と為し、唐儉及び前長安の尉の溫大雅を記室と為し、大雅は仍って弟の大有と共に機密を掌り、武士攬を鎧曹と為し、劉政會及び武城（清河郡に属す、山東省東臨道武城県、現・德州市武城県）の崔善為、太原の張道源を戸曹と為し、晉陽の長の上邽（天水郡にあり、甘肅省渭川道天水県、現・天水市秦州区、清水県）の姜謨を司功参軍と為し、太谷（太原郡に属す、山西省冀寧道太谷県、現・晋中市太谷区）の長の殷開山（殷嶠の字）を府掾と為し、長孫順德、劉弘基、竇琮及び鷹揚郎將の高平（北魏は高平郡を置く、改めて平高県と為す、甘肅省涇原道固原県、現・固原市原州区）の王長諧、天水（煬帝は秦州を改めて天水郡とす）の姜寶誼、陽屯を左、右統軍と為す。自餘の文武は、才に隨いて任を授ける。又た世子の建成を以て（10-319p）隴西公、左領軍（左右郡を総領するを以て名付ける。隋の十二衛の左右領軍ではない）大都督と為し、左三統軍は焉に隸す。世民を敦煌公、右領軍大都督と為し（續により補充）、右三統軍は焉に隸し各々官属を置く。柴紹を以て右領軍府の長史と為す。咨議の譙人の劉贍をして西河通守を領せしむ。道源の名は河、開山の名は嶠、皆な字を以て行われる。開山は、不害（殷不害、孝行を以て陳・隋に聞ゆ）之孫也。

● **[李密は回洛倉を確保]** 李密は復た衆を帥いて東都に向かい、丙申（32-16+1=17 日）、大いに平樂園（漢魏の平樂觀の地を圖と為す）に戦う。密の騎を左にし、歩を右にし、中に強弩を列ね、千鼓を鳴らし以て之を沖き、東都の兵は大敗し、密は復た回洛倉を取る。

■ **[突厥 [李淵は突厥と結び劉武周を牽制]** 突厥は其の柱國の康鞘利等を遣わして馬千匹を送りて李淵に詣りて互市を為し、兵を發して淵を送りて關に入り、多少欲する所に隨わんことを許す。丁酉（33-16+1=18 日）、淵は康鞘利等を引見し、可汗の書を受け、禮容は恭を盡くし、康鞘利等に贈遣すること甚だ厚し。其の馬之善き者を選び、止だ其の半を^か市う。義士は私錢を以て其の餘を市うを請い、淵は曰く、
「虜は馬饒^{ゆた}かに而して利を貪り、其の來たること將に已まず、恐らくは汝は市う能わざる也。吾が少しく取る所以の者は、貧を示し、且つ以て急を為さざる故也、當に汝の為に之を^か貰り（掛買い）、汝が費えと為すに足らず。」

乙巳（41-16+1=26 日）、靈壽（恆山郡に属す、直隸省保定道靈壽県、現・河北省石家庄市靈寿县）の賊帥の郗士陵は衆數千を帥いて淵に降り、淵は以て鎮東將軍、燕郡公と為し、仍って鎮東府に置き、僚属を補い、以て山東の郡縣を招撫せしむ。乙巳（乙巳の間違い、41-16+1=26 日）、康鞘利は北に還る。淵は劉文靜に命じて突厥に使いし以て兵を請い、私に文靜に謂って曰く、

「胡騎は中國に入り、生民之大蠹也。吾が之を得んと欲する所以の者は、劉武周が之を引きて共に邊患を為すを恐れるなり。又た、胡馬は行牧し、芻粟を費さず、聊^{いささ}か之を^か藉り以て聲勢を為さんと欲す耳。數百人之外は、之を用いる所無し。」

● 〔王世充は東都を攻める〕 秋，七月，煬帝は江都通守の王世充を遣わして江、淮の勁卒を將い，將軍の王隆をして邛黃蠻を帥い，河北大使（討捕大使）太常少卿の韋霽、河南大使（討捕大使）虎牙郎將の王辯等は各々所領を帥いて同じく東都に赴き，相い知り李密を討たしむ。霽は，世康（開皇の四大總管の一人）之子也。

■● 〔李淵は代王侑を攻める〕 壬子（48-45+1=4日），李淵は子の元吉を以て太原太守と為し，晉陽宮に留守し，後事は悉く之を委ねる。癸丑（49-45+1=5日），淵は甲士三萬を帥いて晉陽を發し，門に立ち衆に誓い，並せて檄を郡縣に移し，諭すに代王を尊立する之意を以てす。西突厥の阿史那大奈も亦た其の衆を帥いて以て従う。甲寅（50-45+1=6日），通議大夫の張綸を遣わして兵を將いて稽胡を^{とな}誨えしむ。丙辰（52-45+1=8日），淵は西河に至り，吏民を慰勞し，窮乏を賑贍す。民の年七十已上は，皆な散官（朝議等の八郎・武騎等の八尉）に除し，其の餘の豪俊は，才に隨いて任を授け，口に功能を^と詢い，手に官秩を注し，一日千餘人を除す。官を受けるに皆な告身（唐志に，官に補する者は皆給するに符を以てするをいう）を取らず，各々淵が書する所の（10-320p）官名を分け而して去る。淵は雀鼠谷に入る。壬戌（58-45+1=14日），賈胡堡（霍邑の西北）に軍し，霍邑を去ること五十餘里。代王の侑は虎牙郎將の宋老生を遣わして精兵二萬を帥いて霍邑に屯し，左武侯大將軍の屈突通は驍果數萬を將いて河東に屯し以て淵を拒む。會々積雨し，淵は進むを得ず，府佐の沈叔安等を遣わして羸兵を將いて太原に還り，更に一月の糧を運ばしむ。乙丑（1+60-45+1=17日），張綸は離石（石州を改める）に克ち，太守の楊子崇を殺す。

■ 〔突厥〕 〔突厥は李淵に援軍派遣〕 劉文靜は突厥に至り，始畢可汗に見え，兵を請い，且つ之と約して曰く、

「若し長安に入れば，民衆土地は唐公に入り，金玉繒帛は突厥に歸せん。」

始畢は大いに喜び，丙寅（2+60-45+1=18日），其の大臣の綬失特勒を遣わして先ず淵軍に至らしめ，告げるに兵已に道に上るを以てす。

■● 〔李淵は李密との連携を模索〕 淵は書を以て李密を招く。密は自ら兵の強きを恃み，盟主と為らんと欲し，己巳（5+60-45+1=21日），祖君彥をして復書せ使めて曰く、

「兄と派流（李淵は李虎に出、李密は李弼に出る、異派なり。李弼は本は遼東襄平の人、李虎の祖は隴西成紀の人、単に同姓というのみ）は異なると雖も，根系は本同じなり。自ら唯^{おも}（惟にすべし）うに虚薄にして，四海の英雄と為り共に盟主に推される。望む所は左提右挈し，力を戮せて同心し，子嬰（代王）を咸陽に執り，商辛（殷の第30代最後の王、煬帝をいう）を牧野に殪す，豈に盛んならず哉！」

且つ淵をして歩騎數千を以て自ら河内に至り，面のあたりに盟約を結ばん使めんと欲す。淵は書を得，笑いて曰く、

「密は妄りに自ら矜大にして，折簡の致す可きに非ず。吾は方に關中に事有り，若し遽に之を絶てば，乃ち是れ更に一敵を生むなり。如かず、辭を卑くして推奨し以て其の志を驕らせ，我の為に成皋之道を塞ぎ（江都の信使を遮る），東都之兵を綴め使め（西の長安に應ずるを得ず），我は意を専らにして西征するを得ん。關中の平定するを俟ち，險に據りて威を養い，徐ろに鷸蚌之勢いを觀、以て漁人之功を収め，未だ晩しと為さざる也。」

乃ち溫大雅をして復書せ使めて曰く、

「吾は庸劣なりと雖も，幸いに餘緒を承け，出でて八使（漢の順帝は八使を遣わす、唐公は山西河東に使いす）と為り，入りては六屯を典り（隋の制は六屯十二衛にして唐公は嘗て將軍たり），顛じ而して扶けざるは，通賢の責める所なり。大いに義兵を會し，北狄に和親し，共に天下を匡^{ただ}す所以は，志は隋を尊ぶに在り。天は烝民を生み，必ず司牧有り。當に今牧と為るは，子に非ず而して誰あるや！老夫の年は知命（孔子曰く、五十にして天命

を知る)を逾え、願いは此に及ばず。大弟を欣戴し、鱗を攀じり翼に付き、唯だ弟は早く圖菴(続は圖籙)を膺け、以て兆民を寧んぜん！宗盟之長は、屬籍(宗屬の籍)容れられ、復た唐に封ぜられ、斯に榮は足りん矣。商辛を牧野に殪し、言うに忍びざる所。子嬰を咸陽に執り、未だ敢えて命を聞かず。汾晉の左右は、尚ほ須く安輯すべし。盟津之會は、未だ期を卜する暇あらず。」

密は書を得て甚だ喜ぶ。以て將佐に示して曰く、

「唐公は推される、天下は定まるに足らず矣！」

是より信使の往來は絶えず。

■【長雨で後退するは得策にあらず】雨は久しく止まず、淵の軍中の糧は乏し。劉文靜は未だ返らず、或は傳える、突厥は劉武周と虚に乗りて晉陽を襲うと(続により補充)。淵は將佐を召して北に還るを謀る。(10-321p) 裴寂等は皆な曰く、

「宋老生、屈突通は兵を連らねて險に據り、未だ猝かに下し易からず。李密は連和すると雲うと雖も、奸謀は測り難し。突厥は貪に而して信無く、唯だ利のみ是れ視る。武周は、胡に事える者也。太原は一方の都會にして、且つ義兵の家屬は焉に在り、還りて根本を救い、更に後舉を圖るに如かず。」

李世民は曰く、

「今禾菽は野を被う、何ぞ糧の乏しきを優えん！老生は輕躁なり、一戰して擒とする可し。李密は倉粟を顧戀し、未だ遠略に違あらず。武周は突厥と外に相い附くと雖も、内は實に相い猜む。武周は遠く太原を利すると雖も、豈に近く馬邑を忘れる可けんや！本は大義を興し、奮いて身を顧みず以て蒼生を救い、當に先ず咸陽に入り、天下に號令すべし。今小敵に遇い、遽に已に師を班せば、恐らくは義に従う之徒は一朝解體し、還りて太原一城之地を守れば賊と為る耳、何ぞ以て自ら全うせん！」

李建成も亦た以て然りと為す。淵は聴かず、促して引き發せ令む。世民は將に復た入りて諫め、會々日暮れ、淵は已に寝ねる。世民は入るを得ず、外に號哭し、聲は帳中に聞こえる。淵は召して之を問ひ、世民は曰く、

「今兵は義動を以て、進み戰い則ち克つ、退きて還れば則ち散らん。衆前に散れば、敵は後に乗じ、死亡するは日無し、何ぞ悲まざるを得ん！」

淵は乃って悟り、曰く、

「軍は已に發す、奈何せん？」

世民は曰く、

「右軍は嚴(嚴重裝備)にし而して未だ發せず。左軍は去ると雖も、計るに亦た未だ遠からず、請う自ら之を追わん。」

淵は笑いて曰く、

「吾之成敗は皆な爾に在り、知る復た何をか言わん、唯だ爾の為す所のまなり。」

世民は乃ち建成と分道して夜左軍を追い復た還る。丙子(12+60-45+1=28日)、太原の運糧も亦た至る。

【李軌は武威、薛舉は天水に自立】

●【李軌は武威にて挙兵】武威(煬帝は涼州を武威郡とす各郡の鷹揚府を置き、郎将・副郎将・長史・司馬あり)の鷹揚府の司馬(各郡の鷹揚府を置き、郎将・副郎将・長史・司馬あり)の李軌は、家は富み、任俠を好む。薛舉(今年四月に挙兵)は亂を金城に作し、軌は同郡の曹珍、關謹、梁碩、李贇、安修仁等と謀りて曰く、

「薛舉は必ず來たりて侵暴し、郡官は庸怯にして、勢いは御ぐ能わず、吾が輩は豈に手を束ねて妻孥を並

せて人の虜にする所と為る可けん邪！若かず、相い與に力を並せて之を拒み、河右に保據して以て天下之變を待たん。」

衆は皆な以て然りと為し、一人を推して主と為さんと欲し、各々相い譲り、肯えて當るもの莫し。曹珍は曰く、

「久しく聞く圖讖に李氏は當に王たらんと。今軌は謀中に在り、乃ち天命也。」

遂に相い與に軌を拜し、奉じて以て主と為す。丙辰（52-45+1=8日）、軌は修仁（涼州の豪望）をして諸胡を集め令む。軌は民間の豪傑を結び、共に兵を起し、虎賁郎將の謝統師、郡丞の韋士政を執る。軌は自ら河西大涼王を稱し、官屬を置き並びに開皇の故事に擬す。關謹等は盡く隋官を殺し、其の家貲を分けんと欲し、軌は曰く、

「諸人は既に逼りて以て主と為す、當に其の號令を稟ける。今義兵を興し以て生民を救う、乃ち殺人して貨を取るは、此れ群盜なる耳、將た何を以て濟らん！」

是に於いて統師を以て太僕卿と為し、士政を太府卿と為す。西突厥の闕達度設は會寧川に據り、闕可汗を自稱し、降を軌に請う。

●〔薛舉は秦帝を自稱、天水に遷都〕薛舉は秦帝を自稱し、其の妻の鞠氏を立てて皇后と為し、子の仁果を皇太子と為す。仁果を遣わして兵を將いて天水を圍み、之に克ち、舉は金城より徙りて之に都す。仁果は多力にして、善く騎射し、軍中に萬人に敵すと號す。然るに性は貪に而して殺すを好む。嘗て庾信（梁より關中に入る）の子の立を獲り、其の降らざるを怒り、火上に磔^{はりつけ}し、稍割きて以て軍士に啖わしむ。天水に克つに及び、悉く富人を召し、之を倒懸し、醋^すを以て鼻に灌ぎ、其の金寶を責む。舉は毎に之を戒めて曰く、

「汝之才略は以て事を辦ずるに足る、然れども苛虐は恩無し、終に當に我が國家を覆えさん。」

●〔李軌は河西五郡を占領〕舉は晉王の仁越を遣わして兵を將いて劍口（劍門の関口）に趨かしめ、河池郡に至る。太守の蕭瑀は拒みて之を卻く。又た其の將の常仲興を遣わして河を濟りて李軌を撃たしめ、軌の將の李寶と昌松（武威郡に属す、甘肅省甘梁道古浪県、現・武威市古浪県）に戦い、仲興は軍を舉げて敗没す。軌は縦して之を遣らんと欲し、寶（斌×）は曰く、

「力戦して俘を獲、復た縦して以て敵に資するは、將た焉んぞ之を用いん！盡く之を坑にするに如かず。」軌は曰く、

「天が若し我に祚^{さいわ}いすれば、當に其の主を擒とすべし、此の屬は終に我が有と為る。若し其の成る無ければ、此を留めるとも何の益あらん！」

乃ち之を縦つ。未だ幾もなくして、張掖、敦煌、西平、枹罕を攻め、皆な之に克ち、盡く河西五郡之地を有す。

●〔竇建德を大霧が助ける〕煬帝は左御衛大將軍の涿郡留守の薛世雄に詔して燕地の精兵三萬を將いて李密を討たしめ、王世充等諸將に命じて皆な世雄の節度を受け、軍の過ぎる所の盜賊は便に隨いて誅剪せしむ。世雄は行きて河間に至り、七里井（河間より七里の地の意味）に軍し、竇建德の士衆は惶懼し、悉く諸城を抜いて南に遁れ、

「還りて豆子〔鹵亢〕（豆子×）に入らん」

と聲言す。世雄は以為らく己を畏れると、復た備えを設けず、建德は還りて之を襲わんと謀る。其の處は世雄の營を去ること百四十里、建德は敢死の士二百八十人を帥いて先行し、餘衆をして續發せ令め、建德は其の士衆と約して曰く、

「夜至れば、則ち其の營を撃たん。已に明ければ、則ち之に降らん。」
未だ至らざること一里の所、天は明けんと欲し、**建徳**は惶惑し降らんと議す。會々天は大いに霧し、人は咫尺（極めて距離が近い）にして相い辨ぜず、**建徳**は喜んで曰く、

「天は我を讀^{たす}ける也！」
遂に其の營に突入して之を撃ち、**世雄**の士卒は大いに亂れ、皆な柵を騰りて走る。**世雄**は禁じる能わず、左右數十騎と遁げて涿郡に歸り、**慚**^{さん}患^いして病を發して卒す。**建徳**は遂に河間を圍む。

【李淵は長安に進軍】

■ 李淵は宋老生を撃破 八月、己卯（15-15+1=1日）、雨は霽^はれる。庚辰（16-15+1=2日）、**李淵**は軍中に命じて鎧仗行装を曝^{さら}さしむ。辛巳（17-15+1=3日）旦、東南して山足の細道由り霍邑に趣く。**淵**は**宋老生**の出でざらんを恐れ、**李建成**、**李世民**は曰く、

「**老生**は勇に而るに無謀なり、輕騎を以て之に挑めば、理は出でざる無し。脱し其の固守すれば、則ち誣^しうるに我に貳あるを以てせん。彼は左右の奏する所と為るを恐れ、安んぞ敢えて出でざらん！」

淵は曰く、（10-323p）

「汝は之を測ること善し、**老生**は賈胡を逆え戦う能わず、吾は其の能く為す無きを知る也！」
淵は數百騎と先ず霍邑の城東數里に至り以て歩兵を待ち、**建成**、**世民**をして數十騎を將いて城下に至らしめ、鞭を擧げて指麾し、將に城を圍まん之狀の若くし、且つ之を誦^{ののし}る。**老生**は怒り、兵三萬を引いて東門、南門より分道し而して出で、**淵**は**殷開山**をして趣して後軍を召さしむ。後軍は至り、**淵**は軍士をして先ず食い而して戦わしめんと欲し、**世民**は曰く、

「時は失う可からず。」

淵は乃ち**建成**と城東に陳し、**世民**は城南に陳す。**淵**、**建成**は戦いて小しく卻き、**世民**は軍頭（新唐志に曰く、武徳元年に鷹揚郎將を改めて軍頭と曰うと。蓋し兵を起すの初め、已に軍頭を置くなり。後に又軍頭を改めて驃騎將軍と為す）の臨淄（北海郡に属す、現・山東省淄博市臨淄区）の**段志玄**と南原より兵を引いて馳せ下り、**老生**の陳を沖き、其の背に出で、**世民**は數十人を手殺し、兩刀は皆な缺け、流血は袖を滿ち、之を灑ぎて復た戦う。**淵**の兵も復た振り、因りて傳呼して曰く、

「已に**老生**を獲たり矣！」

老生の兵は大敗し、**淵**の兵は先ず其の門に趣き、門は閉じ、**老生**は下馬して塹に投じ、**劉弘基**は就きて之を斬り、殭屍數里。日は已に暮れ、**淵**は即ち城に登るを命じ、時に攻具無く、將士は肉薄し而して登り、遂に之に克つ。

■ 李淵は論功を熱くして人心収攬 **淵**は霍邑之功を賞し、軍吏は奴の應募者は良人と同じきを得ざるを疑い、**淵**は曰く、

「矢石之間、貴賤を辨ぜず。論勳之際は、何ぞ等差有らんや、宜しく並びて本勳に従いて授くべし。」
壬午（18-15+1=4日）、**淵**は霍邑の吏民を引見し、勞賞すること西河の如し、其の丁壯を選びて從軍せしむ。關中の軍士の歸らんと欲する者は、並びて五品の散官（煬帝は散職九大夫を置く、朝請う大夫は正五品、朝散大夫は從五品）を授け、遣り歸す。（既に其の帰心に従い、關中の士民の心を動かす）或は諫めるに官の太だ濫なるを以てす、**淵**は曰く、

「隋氏は勳賞を吝惜す、此れ人心を失う所以也、奈何して之に效わん！且つ衆を収めるに官を以てすれば、兵を用いるに勝えざらん乎！」

■ 〔陳叔達の才學を用いる〕 丙戌（22-15+1=8日）、**淵**は臨汾郡（旧平陽郡、山西省河東道臨汾郡、現・臨汾市霍州市）に入り、慰撫すること霍邑の如し。庚寅（26-15+1=12日）、鼓山（絳郡の北）に宿す。絳郡（煬帝は絳州を改める、山西省河東道新絳郡、現・運城市絳郡）通守の**陳叔達**は拒み守る。辛卯（27-15+1=13日）、進みて攻め、之に克つ。**叔達**は、陳の**高宗**之子、才學有り、**淵**は禮し而して之を用いる。

■ 〔突厥の援軍到着〕 癸巳（29-15+1=15日）、**淵**は龍門（山西省河東道河津郡西、現・運城市河津市）に至り、**劉文靜**、**康鞘利**は突厥兵五百人、馬二千匹を以て來たり至る。**淵**は其の來緩（一本に來援）を喜び、**文靜**に謂って曰く、

「吾は西行して河に及び、突厥は始めて至る、兵は少なく馬は多し、皆な君が將命之功也。」

■ 〔李淵は河東を攻めず〕 汾陽（汾陰に作るべし、現・山西省運城市万榮県南西部）の**薛大鼎**は**淵**を説く、

「請う河東を攻める勿かれ、龍門より直ちに河を濟り、永豐倉に據り、檄を遠近に傳えれば、關中は坐して取る可き也。」

淵は將に之に従う。諸將は先ず河東を攻めるを請い、乃ち**大鼎**を以て大將軍府の察非掾（姦非を察する、漢の刺姦掾の如し）と為す。

■ 〔任瑰の關中を定める策〕 河東縣（旧蒲坂、開皇十六年に改名して河東郡。山西省河東道永濟郡、現・運城市永濟市）の戶曹の**任瑰**は**淵**を説いて曰く、（10-324p）

「關中の豪傑は皆な踵を企てて以て義兵を待つ。**瑰**は馮翊に在ること積年（仁壽中に馮翊の韓城尉）、其の豪傑を知る、請う往きて之を諭せば、必ず風に従い而して靡かん。義師は梁山（韓城郡の界、黄河に臨む）より河を濟り、韓城（馮翊郡に属す、陝西省關中道韓城郡、現・渭南市韓城市）を指し、郃陽（陝西省關中道郃陽郡、現・渭南市合陽郡）に逼る。**蕭造**は文吏なり、必ず（続、當あり）塵を望みて服を請う。**孫華**之徒は、皆な當に遠く迎えるべし、然る後に鼓行し而して進み、直ちに永豐に據るべし。未だ長安を得ざると雖も、關中は固より已に定まらん矣。」

淵は悦（説×）び、**瑰**を以て銀青光祿大夫（隋の制、散職、正二品）と為す。

■ 〔孫華は李淵に就く〕 時に關中の群盜、**孫華**は最も強し。丙申（32-15+1=18日）、**淵**は汾陰に至り、書を以て之を招く。己亥（35-15+1=21日）、**淵**は壺口に進軍し、河濱之民の舟を獻ずる者は日々に百を以て數え、乃ち水軍を置く。壬寅（38-15+1=24日）、**孫華**は郃陽より輕騎にて河を渡り**淵**に^{まみ}見える。**淵**は手を握りて與に坐し、之を慰奨し、**華**を以て左光祿大夫、武鄉縣公と為し、馮翊（北魏は華陰、西魏は武鄉、隋の大業の初め馮翊と改名）太守を領せしめ、其の徒の功有る者は、**華**に委ねて次を以て官を授けしめ、賞賜は甚だ厚し。之をして先ず濟ら使む。繼いで左右統軍の**王長諧**、**劉弘基**及び左領軍の長史の**陳演壽**、金紫光祿（散職、正三品）大夫の**史大柰**を遣わして歩騎六千を將いて梁山より濟り、河西に營し以て大軍を待つ。**任瑰**を以て招慰大使と為し、**瑰**は韓城を説き、之を下す。**淵**は**長諧**等に謂って曰く、

「**屈突通**の精兵は少なからず、相い去ること五十餘里、敢えて來たりて戦わず、其の衆は之が用を為さざることを明らかにするに足る。然るに**通**は罪を畏れ、敢えて出でざればならず。若し自ら河を濟りて卿等を撃てば、則ち我は河東に進攻し、必ず守る能わず。若し全軍にて城を守れば、則ち卿等は其の河梁（蒲津橋）を絶つべし。前は其の喉を扼し、後ろは其の背を拊てば、彼は走らざれば必ず擒と為らん矣。」

● 〔驍果に妻帯を許す〕 驍果（親衛隊）の**煬帝**に従いて江都に在る者は多く逃げ去り、**帝**は之を患い、以て**裴矩**に問い、對えて曰く、

「人情匹偶有るに非ざれば、以て久しく處り難し、請う軍士が此に於いて室を納れるを聽さん。」

帝は之に従う。九月、悉く江都の境内の寡婦、處女を召し宮下に集め、將士の取る所を恣にす。或は先ず

與に奸する者は自首するを聽し、即ち以て之を配す。

【李密勢力の拡大】

● 【李密は魏徵を登用】 武陽郡丞の元寶藏は郡を以て李密に降り、甲寅（50-44+1=7日）、密は寶藏を以て上柱國、武陽公と為す。寶藏は其の客の巨鹿（鉅鹿県は襄国郡に属す、直隸省大名道鉅鹿県北、現・邢台市巨鹿県）の魏徵（唐の史家初登場）をして啟を為り密に謝せ使め、且つ武陽を改めて魏州と為すを請う。又た所部を帥いて西に魏郡（煬帝は相州を改める）を取り、南に諸將を會して黎陽倉（汲郡黎陽県、河南省河北道浚県、現・鹤壁市浚県の東）を取るを請う。密は喜び、即ち寶藏を以て魏州總管と為し、魏徵を召して元帥府の文學參軍と為し、記室を掌らしむ。徵は少きとき孤貧にして、好く讀書し、大志有り、落拓（広大な貌）として生業を事とせず。始め道士と為り、寶藏は召して書記を典らしむ。密は其の文辭を愛し、（10-325p）故に之を召す。

● 【魏德深の名政治】 初め、貴郷（貴郷県は武陽郡を帯びる、直隸省大名道元城県東、現・邯鄲市大名県）の長の弘農の魏德深は、政を為すに清靜、嚴ならず而して治まる。遼東之役に、徵稅百端にして、使者は旁午（縦横交錯）し、成を郡縣に責め、民は命に堪えず、唯だ貴郷の間裡のみ擾えず、有無相い通じ、其の力を竭くさず、求める所は皆な給す。元寶藏は詔を受けて賊を捕え、數々器械を調し、動もすれば軍法を以て事に従う。其の鄰城の營造は、皆な聽事に聚まり、官吏は遽（たが）いに相い督責し、晝夜喧囂（けんごう）すれども、猶ほ濟す能わず。德深は便に隨いて修營するを聽し、官府は寂然とし、恆に事無きが若し、唯だ吏を戒めるに須く餘縣に過勝して、百姓をして勞苦せ使むべからざるを以てす。然るに民は各々自ら心を竭くし、常に諸縣之最と為る、縣民は之を愛すること父母の如し。寶藏は深く其の能を害とし、遣りて（續は無し）千兵を將いて東都に赴かしむ。領する所の兵は寶藏が密に降るを聞き、其の親戚を思い、輒ち都門に出で、東に向かいて慟哭し而して返る。或は之に密に降るを勧め、皆な泣いて曰く、

「我は魏明府と同じく來たり、何ぞ棄て去るに忍びんや！」

● 【李密は黎陽倉を取り勢力拡大】 河南、山東は大水し、餓殍は野に滿ち、煬帝は詔して黎陽倉を開きて之を賑わし、吏は時に給せず、死者は日々に數萬人。徐世勣は李密に言つて曰く、

「天下は大亂す、本は饑饉の為なり。今更に黎陽倉を得れば、大事は濟らん矣。」

密は世績を遣わして麾下五千人を帥いて原武（滎陽郡に属す、河南省河北道原武県、現・新郷市原武県）より河を濟り、元寶藏、郝孝德、李文相及び洹水（魏郡の属す、直隸省大名道大名県西、現・邯鄲市大名県）の賊帥の張升、清河の賊帥の趙君德に會し共に襲いて黎陽倉を破り、之に據り、倉を開きて民の食に就くの恣にし、旬間を浹みて勝兵二十餘萬を得る。武安（煬帝は洛州を改める）、永安（黃州を改める）、義陽（齊梁は司州、北魏鄧州、北周は申州、大業二年義州、さらに改名）、弋陽（光州を改める）、齊郡（齊州を改める）は相い繼いで密に降る。寶建德、朱粲之徒も亦た遣使して密に付き、密は粲を以て揚州總管、鄧公と為す。泰山の道士の徐洪客は書を密に獻じ、以為く、「大衆久しく聚まれば、恐らくは米は盡き人は散り、師は老い戦いを厭えば、功を成す可きこと難し。」密に勸めて、

「進取之機に乗り、土馬之銳に因り、流れに沿いて東を指し、直ちに江都に向かい、獨夫（煬帝）を執取し、天下に號令せん。」

密は其の言を壯とし、書を以て之を招き、洪客は竟に出です、之く所を知る莫し。

【李淵の長安直通の選択】

● 乙卯（51-44+1=8日）、張綸は龍泉（隰州を改める、山西省河東道隰県、現・臨汾市隰県）、文成（汾州を改めて文城郡と

為し、吉昌縣に治す。文成は起居注には文城に作る、山西省河東道吉県、現・臨汾市吉県）等の郡を徇え、皆な之を下し、文成太守の**鄭元璿**を獲る。**元璿**は、**譚**（隋の文帝の業を成す）之子也。

● **〔桑顯和は李淵に抵抗〕****屈突通**は虎牙郎將の**桑顯和**を遣わして驍果數千人を將いて夜王**長諧**等の營を襲わしめ、**長諧**等は戦いて利あらず、**孫華**、**史大柰**は游騎を以て後より**顯和**を撃ち、大いに之を破る。**顯和**は脱して走りて城に入り、仍ほ自ら河梁を絶つ。丙辰（52-44+1=9日）、**馮翊**太守の**蕭造**は**李淵**に降る。**造**は、**修**之子也。

■ **〔屈突通は河東の城を守る〕**戊午（54-44+1=11日）、**淵**は諸軍を帥いて（10-326p）河東を圍み、**屈突通**は城を嬰して自ら守る。

■ **〔長安直通の議論〕**將佐は復た**淵**を推して太尉を領し、官屬を増置せしめ、**淵**は之に従う。時に河東は未だ下らず、三輔の豪傑の至る者は日々に千を以て數う。**淵**は兵を引いて西に長安に趣かんと欲し、猶豫して未だ決せず。**裴寂**は曰く、

「**屈突通**は大衆を擁し、堅城に憑る、吾が之を捨て而して去り、若し長安に進攻して克たざれば、退きて河東の踵む所と為り、腹背に敵を受け、此れ危うき道也。先ず河東に克ち、然る後に西上するに若ず。長安は**通**を恃みて援と為し、**通**敗れば、長安は必らず破れん矣。」

李世民は曰く、

「然らず。兵は神速を貴ぶ、吾は累勝之威に席り、歸附之衆を撫し、鼓行し而して西し、長安之人は風を望みて震駭し、智は謀るに及ばず、勇は斷に及ばず、之を取ること槁葉を振るうが若き耳。若し淹留して自ら堅城之下に弊れれば、彼は謀を成し備を修めて以て我を待つを得ん、坐して日月を費せば、衆心は離沮し、則ち大事は去るかな矣。且つ關中の蜂起之將は、未だ屬する所有らず、早く招懷せざる可からざる也。**屈突通**は自ら守るの虜耳、慮りと為す可からず。」

淵は兩つながら之に従い、諸將を留めて河東を圍み、自ら軍を引き而して西す。

● **〔朝邑・華陰は続々李淵に味方〕**朝邑（**馮翊**郡に属す。陝西省閩中道朝邑県、蒲津橋の西、大河に梁して橋と為す、故に中渾あり、現・渭南市大荔県朝邑鎮）法曹の武功の**靳孝謨**は、蒲津、中水單の二城を以て降り、華陰（京兆郡に属す、陝西省閩中道華陰県、現・渭南市華陰市）令の**李孝常**は永豐倉を以て降る、仍ほ河西の諸軍に應接す。**孝常**は、**圓通**（開皇の初めに寵任される）之子也。京兆の諸縣も亦た多く遣使して降を請う。

● **〔東都で王世充と李密激突〕****王世充**、**韋霽**、**王辯**及び河内通守の**孟善誼**、河陽郡尉（河陽は郡ではなく、都尉の間遣い）の**獨孤武都**は各々所領を帥いて東都に會し、唯だ**王隆**（**邛黄蠻**を率いる）は期に後れて至らず。己未（55-44+1=12日）、越王の**侗**は虎賁郎將の**劉長恭**等をして留守兵を帥いて、**寵玉**等は偃師兵を帥い、**世充**等と十餘萬の衆を合せ、**李密**を洛口に撃ち、**密**と洛水を夾みて相い守る。**煬帝**は諸軍に詔して皆な**世充**の節度を受けしむ。

● **〔馮慈明の義〕**帝は攝江都の郡丞の**馮慈明**を遣わして東都に向わしめ、**密**の獲る所と為り、**密**は素より其の名を聞き、坐を延べて勞問し、禮意は甚だ厚く、因りて謂って曰く、

「隋の祚は已に盡き、公は能く孤と共に大功を立てん乎？」

慈明は曰く、

「公の家は先朝に歴事し、榮祿は兼ね備える。善く門閥を守る能わず、乃ち**玄感**と舉兵し、偶々罔羅を脱し、今日有るを得る、唯だ反噬を圖る、未だ高旨を論らず。**莽**（**王莽**）、**卓**（**董卓**）、**敦**（**王敦**）、**玄**（**桓玄**）強盛ならざるに非ざれども、一朝夷滅し、罪は祖宗に及ぶ。僕死し而して後已む、敢えて命を聞かず！」

密は怒り、之を囚える。慈明は防人の席務本に説き、亡げ走ら使む。表を江都に奉じ、及び書を東都に致し賊の形勢を論じ、雍丘に至り、密の將の李公逸の獲る所と為る。密は又た義とし而して之を釋す。出でて營門に至り、翟讓は之を殺す。慈明は、子琮（北齊に事え琅邪王儼の難に死す）之子也。

● 〔張季珣は李密に抵抗半年〕 密之洛口に克つ（今年二月）也、（10-327p）箕山府（大業十二年に箕山・公路二府を移し洛口倉を守らしむ）の郎將の張季珣は固く守りて下らず、密は其の寡弱なるを以て、人を遣わして之を呼ばしむ。季珣は密を罵ること口を極め、密は怒り、兵を遣わして之を攻め、克つ能わず。時に密の衆は數十萬其の城下に在り、季珣は四面阻絶し、領する所は數百人に過ぎず、而して志を執ること彌々固く、誓うに必死を以てす。之久しく、糧は盡き水は竭き（城は原上にありて水汲めず）、士卒は羸病し、季珣は之を撫循し、一も離叛する無く、三月より是の月に至り、城は遂に陷ちる。季珣は密を見肯えて拜せず、曰く、

「天子の爪牙は、何ぞ賊を拜す容けんや！」

密は猶ほ之を降さんと欲し、誘諭し終に屬（統は屈）せず、乃ち之を殺す。季珣は、祥（祥子×、漢王諒は兵挙げて張祥は井陘を守りて下らず）之子也。

■ 〔李淵と建成・世民は関中攻略〕 庚申（56-44+1=1 3 日）、李淵は諸軍を帥いて河を濟る。甲子（60-44+1=1 7 日）、朝邑に至り、長春宮（朝邑県にあり）に捨し、關中の士民の之に歸する者は市の如し。丙寅（2+60-44+1=1 9 日）、淵は世子の建成、司馬の劉文靜を遣わして王長諧等の諸軍數萬人を帥いて永豐倉に屯し、潼關を守り以て東方の兵に備え、慰撫使の竇軌等は其の節度を受ける。敦煌公の世民は劉弘基等諸軍數萬人を帥いて渭北を徇え、慰撫使の殷開山等は其の節度を受ける。軌は、琮之兄也。

■ 〔李淵陣營の人材登用〕 冠氏（春秋の邑名、隋は館陶の東界を分けて冠氏県を置き武陽郡に属す）の長の於志寧、安養（襄陽郡に属す）の尉の顔師古及び世民の婦の兄弟の長孫無忌は淵に長春宮に於いて謁見す。師古名は籀、字を以て行ふ。志寧は、宣敏之兄の子。師古は、之推之孫也。皆な文學を以て名を知られ、無忌は仍ほ才略有り。淵は皆な禮し而して之を用い、志寧を以て記室と為し、師古を朝散大夫と為し、無忌を渭北行軍典簽（親王府より州郡まで典簽有り）と為す。

■ 〔屈突通は関中の李淵を攻める〕 屈突通は淵が西に入るを聞き、鷹揚郎將の湯陰（湯陽×、現・河南省安陽市湯陰県）の堯君素を署して河東通守を領せしめ、蒲板を守ら使め、自ら兵數萬を引いて長安に趣き、劉文靜の遏める所と為る。將軍の劉綱は潼關に戍し、都尉は南城に屯し、通は往きて之に依らんと欲す、王長諧は先ず兵を引いて襲いて綱を斬り、城に據りて以て通を拒み、通は退きて北城を保つ。淵は其の將の呂紹宗等を遣わして河東を攻め、克つ能わず。

■ 〔李氏の画策、関中豪傑集合〕 柴紹之長安より太原に赴く也（今年五月）、其の妻の李氏に謂って曰く、「尊公は舉兵す、今偕に行くは則ち不可なり、此に留まれば則ち禍いに及ばん、奈何せん？」

李氏は曰く、

「君は弟（第に通じる）だ速かに行くべし、我は一婦人、以て潜匿し易し、當に自ら計を為すべし。」

紹は遂に行く。李氏は鄠縣（京兆郡に属す、現・西安市鄠邑区）の別墅に歸り、家貨を散じ、徒衆を聚める。淵の従弟の神通は長安に在り、亡げて鄠縣の山中に入り、長安の大俠の史萬寶等と兵を起して以て淵に應ず。西域の商胡（ソグド人等、何姓はクシャーナに多い）の何潘仁は司竹園（陝西省関中道盩厔県、現・西安市周至県）に入りて盜と為り、衆數萬有り、前尚書の右衛の李綱を劫して長史と為し、李氏は其の奴の馬三寶をして潘仁（潘會×）を説か使め、之と神通に就き、勢いを合わせて鄠縣を攻め、之を下す。（10-328p）神通の衆は一萬

を逾え、自ら關中道行軍總管と稱し、前の樂城（東城？、新安郡に樂城県有り、河間郡樂壽県は旧樂城という）長令の**狐德棻**（宇文氏に事え勞績を河西に著す）を以て記室と為す。**德棻**は、**熙**之子也。**李氏**は又た**馬三寶**をして群盜の**李仲文**、**向善志**、**丘師利**等を説か使め、皆な衆を帥いて之に従う。**仲文**は、**密**之從父、**師利**は、**和**（丘和は饋食を持って煬帝の寵用される）之子也。西京留守は屢々兵を遣わして**潘仁**等を討ち、皆な敗る所と為る。**李氏**は**整屋**、**武功**、**始平**を徇え、皆な之を下し、衆は七萬に至る。左親衛の**段綸**は、**文振**（181 卷大業八年にあり）之子也、**淵**の女を娶り、亦た徒を**藍田**（京兆郡に属す、現・西安市藍田県）に聚め、萬餘人を得る。**淵**の河を濟るに及び、**神通**、**李氏**、**綸**は各々遣使して**淵**を迎える。**淵**は**神通**を以て光祿（從一品）大夫と為し、子の**道彦**を朝請（正五品）大夫と為し、**綸**を金紫光祿（正三品）大夫と為す。**柴紹**をして數百騎を將いて南山（華山より南の方整屋・鄠杜の諸山に接す、長安の南山）に並いて**李氏**を迎え使む。**何潘仁**、**李仲文**、**向善志**及び關中の群盜は、皆な降を**淵**に請い、**淵**は一一書を以て慰勞し官を授け、各々をして其の所に居ら使め、敦煌公の**世民**の節度を受けしむ。

■ **[李世民的僚屬充實]** 刑部尚書の領京兆内史（煬帝は京兆河南尹を改めて内史と為す）の**衛文開**は年老い、**淵**の兵の長安に向かうと聞き、憂懼して疾と成り、復た事に預らず、獨り左翊衛將軍の**陰世師**、京兆郡丞の**骨儀**は代王の**侑**を奉じて城に乗りて拒み守る。己巳（5+60-44+1=2 2 日）、**淵**は蒲津に如く。庚午（6+60-44+1=2 3 日）、**臨晉**（朝邑の古地）より渭を濟り、永豐倉（統は永豐）に至りて軍を勞り、倉を開きて饑民を賑わす。辛未（7+60-44+1=2 4 日）、長春宮に還る。壬申（8+60-44+1=2 5 日）、進みて馮翊に屯す。**世民**の至る所、吏民及び群盜の之に歸すこと流れの如し。**世民**は其の豪俊を収めて以て僚屬を備え、涇陽に營し、勝兵は九萬。**李氏**は精兵萬餘を將いて**世民**に渭北に會し、**柴紹**と各々幕府を置き、「娘子軍」と號す。

■ **[李世民と房玄齡の出会い]** 是より先、平涼の奴賊の數萬は扶風太守の**竇璡**を圍み、數月下らず、賊軍の食は盡く。**丘師利**は其の弟の**行恭**を遣わして五百人を帥いて米麥を負い牛酒を持ち奴賊の營に詣らしめ、奴帥は長揖し、**行恭**は手ずから之を斬り、其の衆に謂って曰く、

「汝の輩は皆な良人なり、何が故に奴に事えて主と為し、天下をして之を奴賊と謂わ使むるや！」

衆は皆な俯伏して曰く、

「願わくは改めて公に事えん。」

行恭は即ち其の衆を帥いて**師利**（師得×）と共に**世民**に渭北に謁し、**世民**は以て光祿大夫と為す。**璡**は、**琮**之從子也。隰城尉の**房玄齡**は**世民**に軍門に謁し、**世民**は一見して舊識の如し、記室參軍に署し、引いて謀主と為す。**玄齡**も亦た自ら以えらく知己に遇うと、心力を罄竭し、知れば為さざる無し。

■ **[李淵は長安を包圍]** **淵**は**劉弘基**、**殷開山**に命じて兵を分けて西に扶風を略し、衆六萬有り、南に渭水を渡り、長安の故城に屯す。城中は出で戦い、**弘基**は逆撃し、之を破る。**世民**は兵を引いて司竹に趣き、**李仲文**、**何潘仁**、**向善志**は皆な衆を帥いて之に従い、阿城（秦の阿房宮城）に屯し、勝兵は十三萬、軍令は嚴整にして、秋毫も犯さず。乙亥（11+60-44+1=2 8 日）、**世民**は整屋より遣使して**淵**に白し、日を期して長安に赴くを請う。**淵**は曰く、

「屈突は東行し復た西する能わず、虞るに足らず矣！」

乃ち**建成**に命じて倉上精兵を選びて（10-329p）新豐（京兆郡に、現・西安市臨潼区）より長樂宮（漢の故宮）に趣かしめ、**世民**は新附の諸軍を帥いて北に長安の故城に屯し、至れば並びに教を聽く。延安、上郡、雕陰は皆な降を**淵**に請う。丙子（12+60-44+1=2 9 日）、**淵**は軍を引いて西行し、過ぎる所の離宮園苑は皆な之を罷め、宮女を出して其の親屬に還す。冬、十月、辛巳（17-14+1=4 日）、**淵**は長安に至り、春明門（長安城東中門）之西北に營し、諸軍は皆な集まり、合わせて二十餘萬。**淵**は各々に命じて壘壁に依り、村落に入り

て侵暴するを得る母からしむ。屢々遣使して城下に至り**衛文升**等に諭すに隋を尊ばんと欲す之意を以てす、報ぜず。辛卯（27-14+1=14日）、諸軍に命じて進みて城を圍ましむ。甲午（30-14+1=17日）、**淵**は館を安興坊（東面南門の安興門外）に遷す。

【梁再興の試み】

● **〔梁の末裔の蕭銑の挙兵〕** 巴陵（梁は巴州を置く、陳を平らげ岳州、大業の初め羅州、羅郡。煬帝は大都督を校尉と為し師都督を旅帥とす）校尉の鄱陽の**董景珍**、**雷世猛**、旅帥の**鄭文秀**、**許玄徹**、**萬瓚**、**徐德基**、**郭華**、**沔陽**（郡の名、旧復州を置く、大業の初め沔州、沔郡）の**張繡**等は郡に據りて隋に叛せんと謀り、**景珍**を推して主と為す。**景珍**は曰く、

「吾は素より寒賤なり、衆の服する所と為らず。羅川（巴陵郡羅県、現・湖南省岳陽市岳陽県）令の**蕭銑**（梁の宣帝の曾孫の巖の孫）は、梁室之後なり、寛仁大度、請う之を奉じて以て衆望に従わん。」

乃ち遣使して**銑**に報ず。**銑**は喜びて之に従い、賊を討つを聲言し、召募して數千人を得る。**銑**は、**巖**（蕭巖が陳の奔ること開皇八年にあり、九年に殺される）之孫也。

● **〔沈柳生誅殺、梁王即位〕** 會々潁川（煬帝は許州を潁川郡とす、現・許昌市）の賊帥の**沈柳生**は羅川を寇し、**銑**は與に戦いて利あらず、因りて其の衆に謂って曰く、

「今天下は皆な叛し、隋の政は行われず、巴陵の豪傑は兵を起し、吾を奉じて主と為さんと欲す。若し其の請いに従いて以て江南に號令すれば、以て梁の祚を中興す可し、此を以て**柳生**を召せば、亦た當に我に従うべし矣。」

衆は皆な悦び、命を聽き、乃ち梁公を自稱し、隋の服色旗幟を改めて皆な梁舊の如きとす。**柳生**は即ち衆を帥いて之に歸し、**柳生**を以て車騎大將軍と為す。起兵して五日、遠近の歸附する者は數萬人に至り、遂に衆を帥いて巴陵に向かう。**景珍**は**徐德基**を遣わして郡中の豪傑數百人を帥いて出で迎え、未だ**銑**を見るに及ばず、**柳生**は其の黨と謀りて曰く、

「我は先ず梁公を奉じ、勳は第一に居る。今巴陵の諸將は、皆な位高く兵多く、我が若し城に入れば、返って其の下に出でん。如かず、**德基**を殺し、其の首領を質とし、獨り梁公を挾みて進みて郡城を取らん、則ち我が右に出る者無し矣。」

遂に**德基**を殺す。入りて**銑**に白し、**銑**は大いに驚いて曰く、

「今亂を撥いて正に反さんと欲す、忽ち自ら相い殺す、吾は若^{なんじ}が主と為す能わず矣。」

因りて歩いて軍門を出る。**柳生**は大いに懼れ、地に伏して罪を請い、**銑**は責め而して之を赦し、陳の兵は入城す。**景珍**は**銑**に言つて曰く、

「**徐德基**は義を建てる功臣なり、而るに**柳生**は故無く之を擅殺す、此れ而して誅せざれば、何を以て政を為さん！（10-330p）且つ**柳生**は盜を為すこと日久しく、今義に従うと雖も、凶悖移らず、共に一城に處れば、勢いは必ず變を為さん。今を失いて取らざれば、後に悔いるとも及ぶ無し！」

銑は又た之に従う。**景珍**は**柳生**を収め、之を斬り、其の徒は皆な潰え去る。丙申（32-14+1=19日）、**銑**は壇を築きて燔燎し、**梁王**を自稱し、改元して鳴鳳とす。

● **〔王世充と李密の激突〕** 壬寅（38-14+1=25日）、**王世充**は夜洛水を渡り、黒石に營し、明くる日、兵を分けて營を守り、自ら精兵を將いて洛北に陳す。**李密**は之を聞き、兵を引いて洛を渡りて逆え戦い、**密**の兵は大敗し、**柴孝和**は溺死す。**密**は麾下の精騎を帥いて洛南に渡り、餘衆は東に月城（洛城に臨みて偃月城

を築き倉城と相応ず)に走り、世充は追いて之を圍む。密は洛南より馬に策^{むちう}ちて直ちに黒石に趣き、營中は懼れ、連^{しき}りに六烽を挙げ、世充は月城之圍みを釋き、狼狽して自ら救う。密は還りて與に戦い、大いに之を破り、斬首は二千餘級。

【李淵は長安占領】

■ 【李淵は長安占領、代王を執る】 甲辰 (40-14+1=27日)、李淵は諸軍 (諸×) に命じて城を攻め、約す、「七廟及び代王、宗室を犯すを得る母かれ、違ふ者は三族を夷げん！」

孫華は流矢が中たりて卒す。十一月、丙辰 (52-44+1=9日)、軍頭の雷永吉は先ず登り、遂に長安に克つ。代王は東宮に在り、左右は奔散し、唯だ侍讀の姚思廉のみ側に侍し。軍士は將に殿に登らんとし、思廉は聲を厲して之を訶して曰く、

「唐公は義兵を挙げ、帝室を匡^{ただ}す、卿等は禮無きを得る母かれ！」

衆は皆な愕然とし、庭下に布立す。淵は王を東宮に迎え、大興殿 (隋宮正殿) の後ろに遷居せしめ、思廉が王を扶けるを聽し順陽の閣下に至り、泣拜し而して去る。思廉は、察 (姚察は陳に事え、文義を以て称せらる) 之子也。淵は還り、長樂宮に捨し、民と法十二條を約し、悉く隋の苛禁を除く。

■ 【責任追及最小限】 淵之兵を起す也、留守官は其の墳墓を發き、其の五廟 (隋の制では諸公は五廟を立つ) を毀す。是に至り、衛文升は已に卒す、戊午 (54-44+1=11日)、陰世師、骨儀等を執り、數めるに貪婪苛酷にして、且つ義師を拒むを以てし、俱に之を斬り、死者は十餘人、餘は問う所無し。

■ 【李靖は李世民の幕下に入る】 馬邑 (朔州を改める) の郡丞の三原 (京兆郡に属す、陝西省閩中道三原県、現・咸陽市三原県) の李靖は、素より淵と隙有り、淵は入城し、將に之を斬らんとす。靖は大呼して曰く、

「公は義兵を興し、暴亂を平らがんと欲す、乃ち私怨を以て壯士を殺すを乎！」

世民は之が為に固く請い、乃ち之を捨^{ゆる}し。世民は因りて召して幕府に置く。靖は少くして志氣を負い、文武才略有り、其の舅の韓擒虎は毎に之を撫して曰く、

「與に將帥之略を言う可き者は、獨り此の子耳！」

【李密は翟讓を肅正】

● 【王世充は李密に大敗】 王世充は洛北之敗に、壁を堅くして出でず。越王の侗は遣使して之を勞い、世充は慚じ懼れ、戦うを密に請う。丙辰 (52-44+1=9日)、世充は密と石子河を夾み而して陳し、密は陳を佈くこと南北十餘里、翟讓は先ず世充と戦い、利あらず而して退く。世充は之を逐い、王伯當、裴仁基は旁より其の後を横斷し、密は中軍を勒して之を撃ち、世充は大敗して、西に走る。

● 【李密は翟讓を誅殺】 翟讓の司馬の王儒信は讓に自ら大塚宰と為り、衆務を總統し、以て密の權を奪うを勧め、讓は従わず。讓の兄の柱國の滎陽公の弘は、粗愚の人也、讓に謂って曰く、

「天子は汝當に自ら為るべし、奈何して人に與えるや！ (10-331p) 汝は為らざる者は、我は當に之に為らん！」

讓は但だ大笑いし、以て意と為さず、密は聞き而して之を惡む。總管の崔世樞は鄆陵 (潁川郡に属す、河南省開封道鄆陵県、現・許昌市鄆陵県) より初めて密に付き、讓は之を私府に囚り、其の貨を責め、世樞は營求して未だ辦ぜず、遽に刑を加えんと欲し。讓は元帥府の記室の邢義期を召して博し、逡巡して未だ就かず、之を杖すること八十。讓は左長史の房彥藻に謂って曰く、

「君は前に汝南を破り、大いに寶貨を得、獨り魏公に與え、全く我に與えず！魏公は我之立てたる所な

り、事未だ知る可からず。」

彦藻は懼れ、狀を以て密に告げ、因りて左司馬の鄭頌と共に密を説いて曰く、

「讓は貪悞不仁にして、君を無くする之心有り、宜しく早く之を圖るべし。」

密は曰く、

「今安危は未だ定まらず、遽に相い誅殺すれば、何を以て遠きに示すや！」

頌は曰く、

「毒蛇は手を螫せば、壯士は腕を解く、全くする所の者は大なるが故也。彼が先ず志を得れば、悔いても及ぶ所無し。」

密は乃ち之に従い、置酒して讓を召す。戊午（54-44+1=1 1 日）、讓は兄の弘及び兄の子の司徒府長史の摩侯と同じく密に詣り、密は讓、弘、裴仁基、郝孝德と共に坐し、單雄信等は皆な立ちて侍し、房彦藻、鄭頌は往來を檢校す。密は曰く、

「今日達官と飲み、多人を須いず、左右は止だ數人の給使を留め而して已む。」

密の左右は皆な引いて去り、讓の左右は猶ほ在り。彦藻は密に白して曰く、

「今方に樂を為す、天の時は甚だ寒し、司徒の左右は、請う酒食を給せん。」

密は曰く、

「司徒の進止に聽す。」

讓は應じて曰く、

「甚だ佳し。」

乃ち讓の左右を引いて盡く出で、獨り密の下^{もと}の壯士の蔡建德は刀を持ちて立侍す。食未だ進まず、密は良弓をだし、讓と射を習い、讓は方に滿を引き、建德は後より之を斫り、床前に^{たお}踞れ、聲は牛の吼えるが若し、弘、摩侯、儒信は並せて皆な之を殺す。徐世勣は走り出、門者は之を斫りて頸を傷け、王伯當は遙に之を訶止す。單雄信は叩頭して命を請い、密は之を釋す。左右は驚擾し、為す所を知る莫し、密は大言して曰く、

「君等と同じく義兵を起し、本より暴亂を除く。司徒は專行貪虐し、群僚を陵辱し、復た上下無し。今誅する所は止だ其の一家のみ、諸君は預る無き也。」

命じて徐世勣を扶けて幕下に置き、親ら為に創を傳す。讓の麾下は散ぜんと欲す、密は單雄信をして前往して宣慰せ使め、密は尋いで獨騎にして其の營に入り、歷く撫諭を加え、世勣、雄信、伯當をして分けて其の衆を領せ令め、中外は遂に定まる。讓は殘忍、摩侯は猜忌、儒信は貪縱なり、故に死する之日、部する所の之を哀する者無し。然るに密之將佐は始めて自ら疑う之心有り矣。始め、王世充は讓が密と必ず久しく睦まざるを知り、其の相い圖りて、従い而して之に乗ずるを得るを冀う。讓の死するを聞くに及び、大いに失望し、歎じて曰く、

「李密は天資明決なり、龍と為り蛇と為る、固に測る可からざる也！」

【長安の李淵の地固め】

■ 〔代王皇帝即位、李淵は府庫を傾けて賞賜〕 壬戌（58-44+1=1 5 日）、李淵は法駕を備え代王を迎えて皇帝の位に天興殿（大興殿とすべし）に即かしめ、時に年十三、大赦し、改元し、遙に煬帝を尊びて太上皇と為す。甲子（60-44+1=1 7 日）、淵は長樂宮より長安に入る。淵を以て假黃鉞、使持節（10-332p）、大都督内外諸軍事、尚書令、大丞相と為し、進めて唐王に封じる。武德殿を以て丞相府と為し、教を改めて令

と稱し、日々に虔化門（大興殿前の東偏にあり）に於いて事を視る。乙丑（1+60-44+1=18日）、榆林、靈武、平涼、安定の諸郡は皆な遣使して命を請う。丙寅（2+60-44+1=19日）、詔して軍國の機務、事の大小と無く、文武官を設けること、位貴賤と無く、憲章賞罰は、鹹な相府に歸す。唯だ天地を郊祀し、四時禘祫するは奏聞せしむ。丞相府の官屬を置き、**裴寂**を以て長史と為し、**劉文靜**を司馬と為す。**何潘仁**は**李綱**をして入見せ使め、**淵**は之を留め、以て丞相府の司録と為し（続により補充。隋には丞相府無く、唐公が始めて置く）、選事を專掌せしむ。又た前考功郎中の**竇威**を以て司録參軍と為し、禮儀を定め使む。**威**は、**熾**（隋初の三公）之子也。**淵**は府庫を傾けて以て勳人に賜い、國用は足らず、右光祿大夫（隋の散職、從二品）の**劉世龍**は獻策し、以為く、

「今義師は數萬、並せて京師に在り、樵蘇貴く而して布帛は賤し。請う（長安城内の）六街及び苑中の樹を伐りて樵と為し、以て布帛に易えん、數十萬匹を得る可し。」

淵は之に従う。己巳（5+60-44+1=22日）、**李建成**を以て唐の世子と為し、**李世民**を京兆尹、秦公と為し、**李元吉**を齊公と為す。

● **〔郇王慶は李密に降る〕** 河南の諸郡は盡く**李密**に付き、唯だ滎陽太守の郇王の**慶**（河間王弘の子、弘は高祖の從祖弟）、梁郡（宋州を改める）太守の**楊汪**は尚ほ隋の為に守る。**密**は書を以て**慶**を招き、為に厲害（続は利害）を陳べ、且つ曰く、

「王之先世（続は家世）は、本は山東に住み、本姓は**郭氏**、乃ち**楊族**に非ず。芝焚け蕙歎ずるは、事は此に同じからず。」

初め、**慶**の祖父の**元孫**は早く孤となり、母の**郭氏**に隨いて舅族に養われる。**武元帝**（楊忠、楊堅の父）が周の**文帝**に従いて兵を關中に起すに及び、**元孫**は鄴に在り、**高氏**の誅する所と為るを恐れ、姓の**郭氏**を冒し、故に**密**は然りと云う。**慶**は書を得て惶恐し、即ち郡を以て**密**に降り、姓を**郭氏**に復す。

■ **〔李淵の先祖追諡〕** 十二月、癸未（19-13+1=7日）、唐王の**淵**の大父の**襄公**（李虎、李淵の祖父）に追諡して景王と為す。考（死んだ父、亡）**仁公**（李昞、李淵の父）を元王と為し、夫人の**竇氏**（竇毅の女）を穆妃と為す。

● **〔薛舉と李淵の勢力接触〕** **薛舉**は其の子の**仁果**を遣わして扶風を寇し、**唐弼**は汧源（扶風郡に属す、陝西省漢中道汧源県、現・宝鸡市千陽県）に據りて之を拒む。**舉**は遣使して**弼**を招き、**弼**は乃ち**李弘芝**（唐弼が李弘芝を立てる事182巻大業十年にあり）を殺し、降を**舉**に請い、**仁果**は其の備え無きに乗り、襲いて之を破り、悉く其の衆を並ず。**弼**は數百騎を以て走りて扶風に詣りて降を請い、扶風太守の**竇璡**は之を殺す。**舉**の勢いは益々張り、衆は三十萬と號し、長安を取らんと謀る。丞相の**淵**が已に長安を定めるを聞き、遂に扶風を圍む。**淵**は**李世民**をして兵を將いて之を撃た使む。又た**姜謖**、**竇軌**をして俱に散關（陝西省関中道寶雞県の西南、現・宝鸡市陳倉区）を出、隴右を安撫せ使む。左光祿大夫の**李孝恭**をして山南を招慰せしむ。（丞相府の）府戸曹の**張道源**をして（10-333p）山東を招慰せしむ。**孝恭**は、**淵**之從父の兄の子也。

■ **〔李世民は薛仁果を破る〕** 癸巳（29-13+1=17日）、**世民**は**薛仁果**を扶風に撃ち大いに之を破り、奔るを追いて〔土龍〕坻に至り而して還る。**薛舉**は大いに懼れ、其の群臣に問いて曰く、

「古より天子は降る事有る乎？」

黃門侍郎の錢唐（餘杭郡に属す、浙江省錢唐道餘杭県、現・杭州市余杭区）の**褚亮**は曰く、

「**趙佗**は漢に歸し（漢の高祖・文帝紀）、**劉禪**は晉に仕え（魏紀・晉紀）、近世の**蕭瑒**、今に至るまで猶ほ貴し。禍を轉じて福と為し、古より之有り。」

衛尉卿の**郝瑗**は趨り進みて曰く、

「陛下は問いを失す！**褚亮**之言は又た何ぞ悖れる也！昔漢の**高祖**は屢々奔敗を経、蜀の先主は^{しばしば}亟々妻子

を^{うしな}亡い、卒に大業を成す。陛下は奈何して一戦して利あらざるを以て、遽に亡國之計を為す乎！」
舉は亦た之を悔い、曰く、

「聊^{いささ}か此を以て君等を試みる耳。」

乃ち厚く瑗を賞し、引いて謀主と為す。

■乙未(31-13+1=19日)、平涼の留守の張隆、丁酉(33-13+1=21)、河池太守の蕭瑀及び扶風の漢陽郡(成衆を改める、武都・仇池の地)は相い繼いで來降す。(李世民に來降したのか)寶璣を以て工部尚書、燕國公と為し、蕭瑀を禮部尚書、宋國公と為す。

■「相次いで薛舉に破れる」姜謨、寶軌は進みて長道(漢陽郡に属す。甘肅省渭川道禮泉の東南三十里、現・隴南市礼泉)に至り、薛舉の敗る所と為り、引いて還る。淵は通議大夫(隋の散職、從四品)の醴泉(京兆郡に属す、甘肅省漢中道禮泉県、現・咸陽市礼泉県)の劉世讓をして唐弼の餘黨を安集せしめ、舉と相い遇い、戦いて敗れ、舉の虜する所と為る。

■「李孝恭の温情策で投降相繼ぐ」李孝恭は撃ちて朱粲を破り、諸將は盡く其の俘を殺さんと請い、孝恭は曰く、

「可からず、是より以往、誰か復た肯えて降らん矣！」

皆な之を釋す。是に於いて金川(西城郡を帯びる県、漢の西城県。陝西省漢中道安康県、現・安康市漢滨区)より巴、蜀に出で、檄書の至る所、降附する者は三十餘州あり。

■「屈突通は破れ、李淵に事える」屈突通は劉文靜と相い持つこと月餘、通は復た桑顯和をして夜其の營を襲わしめ、文靜は左光祿大夫の段志玄と力を悉くして苦戦し、顯和は敗走し、盡く其の衆を俘とし、通の勢いは益々^{ちじ}蹙まる。或は通に降るを説き、通は泣いて曰く、

「吾は兩主(文帝・煬帝)に歴事し、恩顧は甚だ厚し。人之祿を食み而るに其の難に違ふは、吾は為さざる也！」

毎に自ら其の頸を^す摩りて曰く、

「要ず當に國家の為に一刀を受けん！」

將士を勞勉し、未だ嘗て流涕せずんばならず、人も亦た此を以て之に^{なつ}懷く。丞相の淵は其の家僮を遣わして之を召し、通は立ちどころに之を斬る。長安の守られざるを聞くに及び、家屬は悉く淵の虜する所と為り、乃ち顯和を留めて潼關に鎮せしめ、兵を引いて東に出、將に洛陽に趣かんとす。通は適々去り、顯和は即ち城を以て文靜に降る。文靜は寶琮等を遣わして輕騎を將い顯和と之を追わしめ、稠桑(河南省河洛道閿郷県、現・三門峽市靈宝市)に及び。通は陳を結びて自ら固め、寶琮は通の子の壽を遣わして往きて之を諭さしむ。通は罵りて曰く、

「此の賊は何ぞ來たるや！昔汝と父子と為り、今汝と仇讎と為る！」(10-334p)

左右に命じて之を射しむ。顯和は其の衆に謂って曰く、

「今京城は已に陷ち、汝の輩は皆な關中の人なり、去りて何に之かんと欲するや！」

衆は皆な仗を釋て而して降る。通は免れざるを知り、下馬し、東南に(続は向東南)再拜して號哭して曰く、

「臣は力屈して此に至り、敢えて國に負くに非ず、天地神祇實に之を知る！」

軍人は通を執りて長安に送り、淵は以て兵部尚書と為し、爵蔣公を賜わり、秦公の元帥府の長史を兼ねしとむ。

■「屈突通は堯君素に恥じる」淵は通を遣わして河東城下に至り堯君素を招諭せしめ、君素は通を見、歔歔して自ら勝えず、通も亦た泣下りて衿を沾し、因りて君素に謂って曰く、

「吾が軍は已に敗れ、義旗の指す所、響應せざるは莫し、事勢此くの如く、卿も當（続は宜）に早く降るべし。」

君素は曰く、

「公は國の大臣為り、主上は公に委ねるに關中を以てし、代王は公に付すに社稷を以てし、奈何して國に負きて生きて降り、乃ち更に人の為に説客と作る邪！公の乗る所の馬は、即ち代王の賜わる所也、公は何の面目ありてか之に乗る哉！」

通は曰く、

「吁！君素、我は力屈し而して來たり。」

君素は曰く、

「方今力猶ほ未だ屈せず、何ぞ多言を用いるや！」

通は慚じ而して退く。

●東都の米は斗三千、人の餓死する者は什に二三あり。

●〔李密は王世充を破る〕庚子（36-13+1=24日）、王世充の軍士の亡げて李密に降る者有り、密は問う、
「世充の軍中は何の為す所や？」

軍士は曰く、

「^{このごろ}比益々兵を募るを見、再び將士を饗す、其の故を知らず。」

密は裴仁基に謂って曰く、

「吾は幾んど奴の度中に落ちんとす、光祿は之を知る乎？吾は久しく出兵せず、世充は芻糧將に竭きんとし、戦いを求めるも得ず、故に募兵して士を饗し、月の晦きに乗じて以て倉城を襲わんと欲す耳、宜しく速かに之に備えるべし。」

乃ち平原公の郝孝德、琅邪公の王伯當、齊郡公の孟讓に命じて兵を勒して分けて倉城之側に屯して以て之を待たしむ。其の夕三鼓、世充の兵は果たして至り、伯當は先ず之に遇い、與に戦い、利あらず。世充の兵は即ち城を陵し、總管の魯儒は拒みて之を卻け、伯當は更に兵を收めて之を撃ち、世充は大敗し、其の驍將の費青奴を斬り、士卒の戦い溺れ死ぬ者は千餘人。世充は屢々密と戦い、勝たず、越王の侗は遣使して之を勞い、世充は訴えるに兵の少なく、數々戦いて疲弊するを以てす。侗は兵七萬を以て之に益す。

■劉文靜等は兵を引いて東に地を略し、弘農郡を取り、遂に新安以西を定む。

■甲辰（40-13+1-28日）、李淵は雲陽令の詹俊、武功縣正の李仲衰を遣わして巴、蜀を徇え、之を下す。

●〔張善安は林士弘に勝つ〕乙巳（41-13+1=29日）、方輿の帥（続は賊師）の張善安は襲いて廬江郡（廬州を改める）を陷とし、因りて江を渡り、林士弘に豫章（洪州を改める、現・九江市湖口県彭澤県等）に歸す。（10-335p）士弘は之を疑い、南塘（南昌県の南塘は本は大江に通じる。漢の永元中、太守張躬は塘を築き、以て南路を通じる、大江は南江なり。現・上饒市余干県）上に營す。善安は之を恨み、襲いて士弘を破り、其の郭郭を焚き而して去り、士弘は徙りて南康（虔州を改める、現・江西省贛州市南康区）に居る。蕭銑は其の將の蘇胡兒を遣わして豫章を襲い、之に克ち、士弘は退きて餘干（現・江西省上饒市鄱陽県）を保つ。

令和6年3月21日 翻訳開始 11551文字

令和6年3月28日 翻訳終了 23608文字